

梅窓院通信

青山



秋の訪れが最勝宝塔を彩ります。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

秋のお彼岸を迎える頃となりました。

お彼岸は年に二度、季節の穏やかな春と秋に行われる行事です。コロナの感染状況によりですが、どうぞお墓参りに来られ、ご先祖様をご供養下さい。皆様のお元氣な姿をご先祖様も楽しみにしていることと思います。

ウィズコロナと言われるものの、まだどのようにコロナと共存するかは手探りの状態かと思いますが、六月には三年ぶりに開山忌法要・能楽奉納を再開、多くの方にお越し頂きました。演者であります橋本忠樹様、和樹様（忠樹様のご子息）も多くの皆様の前で舞えたことを大変喜んでおられました。やはり生の迫力は代え難いものです。

また、六月には「念仏と法話の会（念法会）」も開催致しました。十月にも開催予定です。今号の特集で念法会のご案内をしていますので、ぜひご覧下さい。秋彼岸では寄席も再開、後期仏教講座も引き続き行います。こうして少しずつ行事を再開してきていますが、文化講演会、十夜会のライブ、音楽コンサートの開催はまだ見合わせます。

さて、来年のお話になりますが、四月に行われる増上寺の最大行事、御忌法要（浄土宗を開かれた法然上人の年忌法要）で導師、特別に唱導師といいますが、そちらを務めさせて頂くこととなりました。

平成十七年に京都の浄土宗大本山清浄華院での御忌法要を務めさせて頂きましたが、今度は東京での大役となります。追々ご案内をさせて頂くこととなりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、檀家様に納めて頂いております護寺費につきましてお知らせがございますので、八面をご覧頂きますようお願い申し上げます。

仏教歳時風物詩(59)

秋の暮の仏心

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

秋

の日の夕暮れ、秋の日の夕べは、
だれしもがなにかしらものさびしく、どこかしらそこはかとなきやるせなさを感ずる。もとより一日二日の夕方には、その日その日を終えて納める気分・気持ちの収束感があり、ほっとひと息安堵する心と、ひとつのことが終わってしまふ去りがたい寂寥感が伴うものである。

そうした日暮れ時のせつなさ、わびしさも、やはり秋の季節がいちばんに身に沁みるわけである。夕焼け空へ、夕焼け雲へはるかに心を寄せて、ひとり感懐を殊更にするのも、まさに秋の夕暮れがひとしおのものである。

さて俳句の季語としての秋の暮(文
章語では暮れと表記するが、季語としては送り仮名の「れ」を加えない場合がほとんどである)は、秋の夕暮・秋の昏れ・秋の夕・秋夕など一日の終わりとという意味合いと、もうひとつ、行く秋・秋の終わりと、すなわち暮秋・晩秋・暮の秋・秋暮るるといふ意味合いを持っている。秋の暮を、夕方、夕暮れの一義に定めるか、また秋の末、遅い秋をも含めるのか、山本健吉は「今は両義にわたる曖昧な季語としておく方が妥当だろう」と記している。ただ近年は、たとえば平井照敏のように「秋の日暮れのこと、秋の終りのことではない。古来この両方に使われてきたが、今で

は日暮れどきだけに使う」としているようである。

ふるさは山路がかりに秋の暮(垂浪) 秋の暮川の向ふに子守歌 (不死男)

まずは秋の一日の終わりに感ずる郷愁の思いに寄せて採句した。「石楠」を主宰して俳句道を全うした白田垂浪の句はおだやかに詠じているが、その故郷である信州の山並みが背景にあるとすれば、他県生まれの私にもなるとはなしになつかしいものが聞こえてくる。新興俳句に発した秋元不死男は、その句風は時代とともに移り変わったが、人間性を尊重した庶民の心を作句した態度は晩年まで不変であった。川向こうから聞こえる子守歌に、ふと幼い頃の思い出がよみがえるのである。

西天に引かれて歩む秋の暮 (遷子) 足もとはもうまつくらや秋の暮 (時彦)

相馬遷子の句は、秋の入り日の沈む西空へ心を寄せながら歩む日暮れ道の小景である。草間時彦の句は、太陽もはるかに沈んでしまつて、もうとつぷりと暮れてしまった覚束ない足取りの自分を見つめている。遷子は東大医学部卒業の医者を業とした人、時彦は祖父天葩(子規門)、父時光(秋桜子門)という俳

句二家に育った人。ともに水原秋桜子、石田波郷の教えを受け、「馬酔木」「鶴」の同人として、余裕のあるおだやかな句境を獲得している。

墓地に立つ秋の彼岸の夕まぐれ (裕彦)

入り日の方をはるかに望んで、私はひとり墓地に立つている。たしかに、大分たそがれて、あたりは薄暗くなってきた。

さてここまで書いてきて、改めて表題に掲げた「秋の暮の仏心」とはどういうものであるうか。まともりがつかないかもしれないが、私は次のように記してみたい。

秋の日の夕暮れ。西空に落日を拝しながら、夕焼け小焼けのなつかしさを偲ぶ夕景は、遠い昔の子供の頃の思い出である。その過ぎた時間への郷愁の心の中に、今は亡き人のあの顔、この顔が思い浮かび、思いよぎる。せつなさに胸がつまり、なにかしらいとおいしいものに愛情の思いがつのり、うるうるとした情感があふれてくる。暮れなずみ、そして暮れ残る夕空へ向けて、私の心は一生懸命に、やさしく、やさしくなろうとして深い深い感傷に沈む。そうしてその思いにひたすらに心を致して、ひたむきに心を寄せて行く。

(大正大学名誉教授)

5・6・7月の行事報告

施餓鬼会法要
5月21日(土)



開山忌法要・能楽奉納
6月11日(土)



第80回念仏と法話の会
6月28日(火)



盂蘭盆会法要
7月13日(水)



令和4年秋彼岸会法要はお席をご用意し、ご着席頂ける予定でございます。
宜しければ祖師堂へお参り下さい。

彼岸寄席 午後1時～ 地下2階 祖師堂



三遊亭歌る多 師匠 プロフィール

二つ目: 神田桜子

1962年荒川区生まれ。

1981年三遊亭圓歌師匠に入門。

1993年女性初の真打ち昇進(女流粹)。

2000年女流粹撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。

寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。

2010年6月より落語協会理事・演芸家連合常任理事就任。

令和元年の秋彼岸の様子

秋彼岸会法要 午後2時～ 地下2階 祖師堂

※場所や内容が変更になる場合がございます。

秋彼岸法要

九月二十三日(金・祝)

東京都に緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発出された場合



梅窓院ホームページの
QRコード

彼岸寄席を中止とし、2階本堂にて法要の様子をライブ配信予定です。
お席のご用意はございませんが、法要中はお焼香頂けますので、宜しければ本堂へお参り下さい。
お塔婆につきましては、法要後に僧侶にて建てさせていただきます。
最新情報は梅窓院ホームページをご覧ください。
<https://www.baisouin.or.jp/>

塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

- 同封のハガキにご記入の上、9月15日(木)必着でお申込み下さい。
- 塔婆回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、受付までお持ち下さい。
(銀行・コンビニでのお支払いはできません。)

お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は感染症対策をした上で電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。
- 会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整できる服装でご来寺下さい。

秋彼岸によせて

まだまだ暑い日が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて、六月より「念仏と法話の会」を再開いたしました。次回は十月十二日(水)に開催する予定です。再開の機会に、「お別時」についてお話させていただきます。

「お別時」とは「別時念仏」といい、日時を決めお念仏することです。法然上人のご法語には次のように説かれています。

「時々、別時の念仏をお称えし、身も心も励まし調べてお念仏の道を進んで参りましょう。毎日六万遍、七万遍をお称えしていれば足りるのですが、人の心というのは、慣れてきますと、イライラして気が乗らず、朝夕は忙しなくて、心も落ち着かず、に段々とお念仏が疎かになってしまふものです。そうした心持ちをお念仏に向けるために時々、別時の念仏をお称えするのです。」

鎌倉時代の法然上人の時代から、ストレス社会だったことが伺えます。ところで、若い人の間でサウナに入って日常の疲れを癒し、身も心も「整う」のがブームだそうですね。「整う」という言葉を聞くたびに、私もお別時で「整えない」と思うようになりました。

私は念仏こそ心のお風呂と思っております。お念仏の功德により八十億劫という果てしない時間、生死を繰り返すべき罪でさえ、帳消しいただける「観無量寿経」に説かれていたからです。十月の「念仏と法話の会」では、皆様と一緒に念仏し、心の垢をさっぱりと洗い流して、身も心も整えて参りたいと思っております。

(副住職 中島真紹 合掌)

令和4年度 秋のペット慰霊法要のお知らせ

梅窓院僧侶がご供養を勤めます。ぜひご参列下さい。なお、感染状況によってはライブ配信に切り替える可能性もございますので、予めご了承下さい。

開始時間: 正午～ 2階本堂

主催: 株式会社ジャパンエキスパートシステム



秋彼岸とは

春と秋に行われる1週間続く行事で、彼岸へ至るための修行期間です。また、ご先祖さまの供養、お墓参りをする期間でもあります。最近では天候不順で春と秋が短くなっていますが、季節の良いこの季節、お墓参りにお越し下さい。

「南無阿弥陀仏」念仏の意味を知って 念仏と法話の会に参加しよう!!



「念仏と法話の会」(以下、念法会)は浄土宗が一番大切にする念仏を皆さんと一緒に称え、念仏の教えを説く法話を聞く行事で、年に三回行われる梅窓院の昔からある定番の行事です。

今回、梅窓院広報部のマスコット、うめ子ちゃんがお坊さんに念仏について聞きました。

「南無阿弥陀仏」をお念仏というのは知っていますが、なぜお念仏を称えるのか、そのわけを教えてください。



はい、わかりました。最初に言葉の意味ですが、「南無」とはサンスクリット語で、「お願いします」という意味です。

「阿弥陀仏」は梅窓院の本堂に鎮座されています。仏様、阿弥陀如来のことで、意味はサンスクリット語で「永遠の命」(無量寿)、「永遠の光」(無量光)を意味しています。そして、この永遠の仏様である阿弥陀様は西方極楽浄土というところにお住まいになっています。ということで、「南無阿弥陀仏」は「阿弥陀様お願いします」という意味になります。では、一体何を願うのでしょうか。

それはこの世(現世)からいなくなる時、つまり自分の命がなくなる時に「阿弥陀様のいらっしやる極楽浄土(来世)へ生まれ変わらせて下さい」とお願いしているのです。

「往生」という言葉を聞いたことがあるかと思いますが、この「往生」とは、往って生まれる、阿弥陀様の西方極楽浄土に自分が生まれ変われることをお願いしているのです。つまり、念仏とは「往生」を願うことなのです。

阿弥陀様は自分の名前を呼んだら、必ず自分の国、西方極楽浄土に救ってくれと約束して仏様になったので、その約束が根拠になっています。

そうだったのですね。自分の「往生」をお願いする言葉だったのですね。



はい、そして同時に念仏を称えることは善い行いですから、その善い行い、善行といいますが、善行が生む功德、これは仏様からのめぐみですが、この功德をご先祖の供養に回し向けることができます。そう、回向ですね。

つまり、ご葬儀や法要で念仏を称えることで、自分の往生とともに、亡くなった方やご先祖様の供養もできるのが念仏なのです。

念仏、すごいですね。



念仏には、極楽浄土を思い浮かべ心の中で称える念仏などありますが、「声に出して称える念仏が一番すぐれていますよ」と、口に出して称える念仏、口称念仏を選びとったのが法然上人です。

声に出す念仏ですね。



そうですね、声を出せない場所も多いでしょうけれど法然上人は、念仏はその人が称えやすい環境で称えましようと呼んでいます。

阿弥陀様の前がいい人、一人で称えたい人、大勢で称えたい人、寝る時が称えやすい人など色々ありますが、法然上人はどこでもいつでもいいです。

《念法会の流れ》

年に3回、2月、6月、10月に開催しています。

※どなたでもご参加できます。

観音堂に集合

お持ちの方は輪袈裟とお数珠をお持ち下さい。
貸し出しの用意もあります。

開会挨拶

念仏行道で本堂へ

念仏を称えながら本堂への階段を登ります。
エレベーターも利用できます。



別時念仏会

法要の中の念仏一会で木魚を叩きながら念仏を称えます。



念仏行道で観音堂へ

念仏を称えながら観音堂へ戻ります。

精勤表彰

精勤された方を5回ごとに表彰・記念品を贈呈し、
記念撮影を行います。



法話

他寺からお迎えしたご僧侶に法話をお話し頂きます。
(約70分間・途中休憩あり)



閉会の挨拶



よ、と仰っています。また、念仏を称えていて眠くなったら寝てもいいとまで仰っています。
つまり、法然上人は念仏を称えることが最優先で、細かいことにはこだわっていないのです。

うめ子はお檀家さんと一緒に称えたいです。



それなら念法会がいいですね。とにかく念仏を実際に称えてみることをお勧めします。

現在はコロナ対策で本堂の扉を開け換気しますが、扉を閉めた暗闇の中、ろうそくの灯りのもと、木魚を叩きながらの念仏は素晴らしいですよ。

次回念法会のお知らせ

10月12日(水)

法話講師：月城 嘉辰上人
(高知県四万十市 正福寺 住職)

京都生まれ京都育ち。元お笑い芸人の住職です。法然上人ゆかりの正福寺再興のため日々勤しんでおります。ご本尊阿弥陀如来修復のため全国津々浦々へと勧進の旅を続けております。



※詳細は同封チラシをご覧ください。

法然上人の『一枚起請文』の中に「一向に念仏すべし」という言葉があります。ぜひ、念法会でお念仏をお称えしてみして下さい。

旅先で名産品を味わったり、お土産品を買うのは旅行ならではの楽しみ。郡上八幡にも色々な名産品がありますが、今回は「とちの実せんべい」の野田軒製菓舗さんを訪れ、郡上八幡観光協会の専務理事にも就かれています。にお話を伺いました。

◆本日はよろしくお願ひ致します。さて、郡上の伝統菓子、とちの実せんべいを焼きたてで頂きましたが、美味しいですね。

ありがとうございます。

そう言って頂けるのが一番です。

◆ほんのり甘いのは、とちの実の甘さですか。

いいえ、とちの実は灰汁が強い実で、アク抜きが大変です。その実を砕いて、ザラメを加えてお煎餅にしています。

◆そうなのですか。この甘さ加減と、ほどよい硬さはさんの腕ということですね。

そうですね(笑)。

◆焼き方に特徴はあるのですか。

はい、うちは昔からの六角の釜を使っています。私が生まれる25年前、昭和28年からの釜で、もう70年になりますね。

◆さんで何代目ですか。

三代目です。祖父が大正14年に創業しました。

◆梅窓院の春彼岸物産展やインターネットでも「とちの実せんべい」は販売されていますね。

はい、焼きたてとはいきませんが、多くの方に食べてもらいたいですからね。

◆本業以外に、郡上八幡の観光協会の専務理事も務められていると伺いました。

一昨年からです、行事のまとめ役などが主な仕事です。



六角の釜でとちの実煎餅を焼く



朗らかな笑顔が素敵な
今日も郡上八幡を盛り上げるために頑張っています!

◆郡上八幡は多くの観光客が訪れますが、その魅力は何でしょうか。

私は学生時代、大阪に住んでいましたが、思いのほか近所付き合いが盛んで、ここ郡上八幡と似ていました。

郡上八幡は観光地でもあります、生活の場です。いわゆる見せる観光地、作られた観光地ではなく、生活が根付いた空間なのです。これが魅力だと思います。

◆なるほど。地元でのお付き合いはやはりお店の経営者など商売をされている方が多いのですか。

有名な宗祇水のあるのが本町で観光メインの地区、新町は昔からの商店街、どちらにも色々なお店がありますが、そうした方々とのお付き合いが多くなりますね。ブランドや商売の仕方は違って物作りをする根本は一緒ですから。

◆そうした方々と様々な行事を主催されているのですね。

郡上八幡の自然や歴史を素材にする行事で、夏は小駄良川のライトアップ、春秋は行楽、冬には餅つきをしています。自分たちが企画し動き出しますが、地元の子供たちや町の方にも協力、参加してもらっています。コミュニティでやることと老若男女の交流が目的で、行事そのものは手段、といってもいいですね。

◆人との繋がりを大切にするのが、郡上八幡なのですね。

距離感が近い関係には面倒な所もないとは言いませんが、先を見据えて一緒に何かをやることは大切です、その大切さを共有できているのが私たちの町ですね。

◆今日は郡上八幡のさらなる魅力を教えて頂きました。ありがとうございました。



重陽節を祝う「菊花」

食は命

武鈴子
食養研究家

第八十八回

秋の深まりとともに菊の花が見ごろを迎え、各地で菊花展・菊まつりが盛大に開催されます。菊は花卉の中でもっとも高貴な花として尊ばれ「百草王」と称されて、観賞用として、同時に薬餌としても、延命の効ありと親しまれていました。夜、菊の花に綿をかぶせ、花の露と香りを綿にしみこませて得た「菊水」を飲めば、長生きすると伝えられ、菊の花の香りを含んだ綿を焚いてお酒の燗をして飲む慣わしがありました。『飲食事典』によると、九月九日の重陽に菊花の宴が行われる慣わしは平安時代からあり、この日賜うお酒を菊酒と名づけ、延命の縁起を祝っていました。

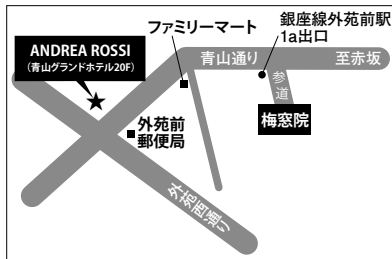
本草書によると、菊の花には体にこもった熱を冷まし、体内に残っている古い血を除いて血行をよくする働きがあり、結膜炎、高血圧、慢性肝炎、風邪の頭痛などを改善する効能があります。

また、紫色の色素ナスニンには抗酸化作用、老化防止作用があり、黄菊には食中毒を防ぐ抗菌作用、めまい、頭痛、結膜炎など上部の熱を治す働きがあります。干した菊花を枕にすれば、頭や目の病気を除く(本朝食鑑)ともあります。

刺身に添える小粒の黄菊(坂本菊)は、江戸時代鮮度の落ちた魚にもっぱら使われ、食べても食あたりしないようにとの心配りでした。

茹で卵の殻をむき、中央部に周囲から小刀でジグジグ形に切れ目を入れ、手のひらで押しつぶすと花型になり、これを「菊玉子」といいます。

参考『江戸料理事典』



営業時間/アフタヌーンティー12:00~17:00 (15:00 L.O.)

定休日/火曜日

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で、店舗の営業時間に変更となる場合がございます。最新情報は店舗まで直接お問い合わせ下さい。

席数/60席

住所/東京都港区北青山2-14-4
青山グランドホテル20F

TEL/03-6271-5429



夏限定のメニュー「Summer Peach Afternoon Tea」♪名物のクレープやジュシーな桃のデザートが楽しめます。
※写真は2名様用です。

梅窓院から徒歩3分、今年の春彼岸号でも取り上げた青山グランドホテルの素敵なアフタヌーンティーを今回はご紹介致します。

ホテルの最上階にあるANDREA ROSSIではランチタイムに旬の素材を贅沢に使用したアフタヌーンティーが楽しめます。「その時期に一番美味しいものを!」をモットーに季節によってテーマが変わります。

その中でも、不動の人気はお店自慢のクレープなのだから。昭和レトロを彷彿とさせる一品で、バターの旨味ともちりとした生地の相性は抜群です。お食事中に提供される焼き立てのマドレーヌもフワフワ、ホクホクでほっぺたが落ちること間違いなし。

青山の街並みが一望できる夢のような空間でのアフタヌーンティーは優雅で至福の時間になることでしょう。お参りの際には、ぜひ足を運んでみて下さい。



店内は開放的かつエレガントな空間で時間を忘れさせてくれます。

飲食店を経営されているお檀家様へ

「青山散歩道」コーナーにて掲載にご協力頂ける飲食店を募集しております。詳しくは8面をご覧ください。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○冷蔵庫開け閉めをする心地よく

◎入選

○竹皮を脱ぐ琅玕の藪あかり

○ラムネ玉輝き放つきらきらと

○ソーダ水うだるときにはこれひとつ

○友送る曲り小径の竹落葉

○梅雨明けや浦賀水道「飛鳥」行く

○振り向けと想いを込めて草矢射る

○そら豆に今日は余分に塩を振り

○梅雨あがる犬の散歩は六時から

○夏蓬すこしはなれて精米所

○陽光に猫が溶けてる夏の庭

◎選者詠

○川舟が岸に着くころ遠花火

大崎 紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉

季語というのは季節感を現わしている言葉だとわたしは考えていて、いまどき「ビール」や「アイスクリム」などには季節感が乏しく、困ったことだと思っています。ところが、「俳句は決まりごとを楽しむものだから、決まっている季語をやめるのどついのわなければいけない」という人もいます。しかし、それで季節の移ろいを詠む俳句は成り立つのかどうか、とわたしは考えています。みなさんはどうでしょうか。

投句募集

次回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。10月21日(金)を締切り、令和5年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係
FAX:03-3404-8436(青山文化村)
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室
電話03-5368-1870

会計報告を本誌に掲載させて頂いております。ご確認を宜しくお願い致します。

自 令和 3年4月 1日
至 令和 4年3月31日
(単位：千円)

■護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	112,479	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,821
		法要費(仏具・法衣・線香など)	14,755
墓地管理費として	30,511	保守修繕費(建物)	180,653
		保守修繕費(墓苑・境内)	14,201
梅窓院からの繰入金	118,033	人件費	41,564
		事務費(郵送費・コピーなど)	6,029
合 計	261,023	合 計	261,023

令和4年度
後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より「令和4年度後期仏教講座」を開講します。今年度後期は4名の先生が担当します。どうぞお気軽にご参加下さい。

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

■■■ 行事予定 ■■■

秋彼岸会法要

9月23日(金・祝)

寄席 午後1時～ 祖師堂

法要 午後2時～ 祖師堂

第81回 念仏と法話の会

10月12日(水)

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

十夜法要

11月19日(土)

※詳しくは十夜号をご覧ください。

梅窓院よりお知らせ

護寺費の再改定のお願い

現在、一律5万円の護寺費につきまして再改定をさせていただきます。詳細につきましては対象の方に別紙を同封致しましたので、必ずご覧下さいますようお願い申し上げます。対象となられる方は護寺費を納めて頂いている檀家様になります。

※最勝宝塔会員・信徒会員・檀家以外の墓地代表者の方は今回の改定の対象外です。

梅窓院住職 中島真成

お檀家さんに伺いました

令和4年 大施餓鬼会法要にて

『懐かしい思い出を大切に』

コロナの影響で3年ぶりに大法要・御説教に参列することができ、久しぶりにお念仏を聞いて、やはり梅窓院の法要は迫力がありとても圧倒されました。

今回の御説教でお話されていた長老が主人の葬儀を務めて頂いたご僧侶で、当時ご親切に頂きましたことを思い出しました。

また、戦災前からお世話になっているので昔の建物など境内のことを良く覚えていますが、今では現代的な寺院となりとても驚いております。

墓参される皆様へ

梅窓院では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、安全衛生対策を強化し、各所に除菌水の設置や換気の対応をしております。ご来寺された際、手指消毒にご利用下さい。

また、マスクのご着用、咳エチケットなど可能な範囲にてご協力頂けますと幸いです。

体調にご不安のある方はくれぐれもご無理なさらぬようお願い致します。

大変恐縮ですが、どうぞご理解とご協力のほど、宜しくお願い致します。

飲食店を経営されているお檀家様へ

年4回掲載の「青山散歩道」コーナーにて掲載にご協力頂ける飲食店を募集しております。檀信徒様で、掲載希望の方、取材・インタビューにご協力頂ける方がいらっしゃいましたら、梅窓院受付もしくは下記の連絡先までご一報下さい。

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38 梅窓院青山文化村
TEL:03-3404-8588 FAX:03-3404-8436 E-mail:bunkamura@baisouin.or.jp

発行 梅窓院
発行日 令和4年9月1日
発行人 中島 真成
編集 青山文化村
住所 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
F A X 03-3404-8107
ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡